

香川高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	国語 I
科目基礎情報						
科目番号	1001		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	通信ネットワーク工学科 (2018年度以前入学者)		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	3		
教科書/教材	新編国語総合 教育出版					
担当教員	富士原 伸弘					
到達目標						
1. 現代文や古文、漢文の読解を通して、他人の物の見方や考え方を知る。 2. 正しい日本語で表現するための基礎を身につける。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		現代文や古文、漢文の読解を通して、他人の物の見方や考え方を完全に理解できる。	現代文や古文、漢文の読解を通して、他人の物の見方や考え方を知る。	現代文や古文、漢文の読解を通して、他人の物の見方や考え方が全く理解できない。		
評価項目2		正しい日本語で表現するための基礎を完全に身につける。	正しい日本語で表現するための基礎を身につける。	正しい日本語で表現するための基礎を身につけることができていない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	現代文・古文・漢文をバランス良く学び、日本文化についての理解を深める。授業発表などを通じてコミュニケーション能力の育成を行う。					
授業の進め方・方法	教科書を基に、講義と論述・発表演習を行う。					
注意点	特に、文化への理解や、他者とのコミュニケーションの達成に重点をおいて授業を進める。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス解説 評論「水の東西」 古文入門・漢文入門	物事の核心を把握する方法を身に付ける。 A3:1 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3		
		2週	評論「水の東西」 古文入門・漢文入門	物事の核心を把握する方法を身に付ける。 A3:1 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3		
		3週	評論「水の東西」 古文入門・漢文入門	物事の核心を把握する方法を身に付ける。 A3:1 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3		
		4週	評論「水の東西」 古文入門・漢文入門	物事の核心を把握する方法を身に付ける。 A3:1 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3		
		5週	評論「水の東西」 古文入門・漢文入門	物事の核心を把握する方法を身に付ける。 A3:1 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3		
		6週	評論「水の東西」 古文入門・漢文入門	物事の核心を把握する方法を身に付ける。 A3:1 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3		
		7週	評論「水の東西」 古文入門・漢文入門	物事の核心を把握する方法を身に付ける。 A3:1 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	テスト返却と解説 国語表現概説	自分の考えを正しく表現できる。 B2:1-2		
		10週	俳句・短歌「折々のうた」 古文「和歌と俳諧」・漢文「漢詩」	自己の主張を的確に展開する力を養う。 B2:1-2 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3		
		11週	俳句・短歌「折々のうた」 古文「和歌と俳諧」・漢文「漢詩」	自己の主張を的確に展開する力を養う。 B2:1-2 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3		
		12週	俳句・短歌「折々のうた」 古文「和歌と俳諧」・漢文「漢詩」	自己の主張を的確に展開する力を養う。 B2:1-2 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3		
		13週	俳句・短歌「折々のうた」 古文「和歌と俳諧」・漢文「漢詩」	自己の主張を的確に展開する力を養う。 B2:1-2 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3		
		14週	俳句・短歌「折々のうた」 古文「和歌と俳諧」・漢文「漢詩」	自己の主張を的確に展開する力を養う。 B2:1-2 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3		
		15週	俳句・短歌「折々のうた」 古文「和歌と俳諧」・漢文「漢詩」	自己の主張を的確に展開する力を養う。 B2:1-2 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3		
		16週	テスト返却と解説			
後期	3rdQ	1週	プレゼンテーション演習	データを効果的に説明する力を養う。 B3:1-2, C4:1-2		

	4thQ	2週	評論「自然保護の二面性」 古文「宇治拾遺物語」・漢文「史伝」	日本人の思考を知り、文化について考える。 A3:2 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3
		3週	評論「自然保護の二面性」 古文「宇治拾遺物語」・漢文「史伝」	日本人の思考を知り、文化について考える。 A3:2 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3
		4週	評論「自然保護の二面性」 古文「宇治拾遺物語」・漢文「史伝」	日本人の思考を知り、文化について考える。 A3:2 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3
		5週	評論「自然保護の二面性」 古文「宇治拾遺物語」・漢文「史伝」	日本人の思考を知り、文化について考える。 A3:2 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3
		6週	評論「自然保護の二面性」 古文「宇治拾遺物語」・漢文「史伝」	日本人の思考を知り、文化について考える。 A3:2 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3
		7週	評論「自然保護の二面性」 古文「宇治拾遺物語」・漢文「史伝」	日本人の思考を知り、文化について考える。 A3:2 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	テスト返却と解説 文章表現概説	自分の考えを正しく表現できる。 B2:1-2
		10週	小説を読む 古文「伊勢物語」・漢文「論語」	登場人物の心情を追体験する。 B1:1-2 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3
		11週	小説を読む 古文「伊勢物語」・漢文「論語」	登場人物の心情を追体験する。 B1:1-2 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3
		12週	小説を読む 古文「伊勢物語」・漢文「論語」	登場人物の心情を追体験する。 B1:1-2 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3
		13週	小説を読む 古文「伊勢物語」・漢文「論語」	登場人物の心情を追体験する。 B1:1-2 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3
		14週	小説を読む 古文「伊勢物語」・漢文「論語」	登場人物の心情を追体験する。 B1:1-2 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3
		15週	小説を読む 古文「伊勢物語」・漢文「論語」	登場人物の心情を追体験する。 B1:1-2 日本及び中国古典に触れて人間と文化を考える。 A1:3
		16週	テスト返却と解説 ディベート演習	発言者の意図を正しく理解できる。 B3:1-3

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者の意見を聞き合意形成することができる。	2	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	2	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	2	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	2	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	2	

				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	2	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	2	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	2	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	2	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	5	0	0	0	5	100
基礎的能力	90	5	0	0	0	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0